

2025（令和7）年度

計算書類等

（学校法人会計）

収益事業除く

大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
学校法人大阪YMCA

貸借対照表

2026 年 3 月 31 日

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産 (有形固定資産)	3,442,485,744	3,533,460,744	△ 90,975,000
(その他の固定資産)	(3,400,808,849)	(3,493,843,516)	△ 93,034,667
流 動 資 産	(41,676,895)	(39,617,228)	(2,059,667)
	499,145,706	525,969,078	△ 26,823,372
資 産 の 部 合 計	3,941,631,450	4,059,429,822	△ 117,798,372
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	292,039,919	320,072,236	△ 28,032,317
流 動 負 債	772,740,219	867,668,058	△ 94,927,839
負 債 の 部 合 計	1,064,780,138	1,187,740,294	△ 122,960,156
純 資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基 本 金	7,667,182,368	7,600,541,232	66,641,136
第1号基本金	7,667,182,368	7,600,541,232	66,641,136
繰 越 収 支 差 額	△ 4,790,331,056	△ 4,728,851,704	△ 61,479,352
翌年度繰越収支差額	△ 4,790,331,056	△ 4,728,851,704	△ 61,479,352
純 資 産 の 部 合 計	2,876,851,312	2,871,689,528	5,161,784
負債及び純資産の部合計	3,941,631,450	4,059,429,822	△ 117,798,372

事業活動収支計算書

2025 年 4 月 1 日 から
2026 年 3 月 31 日 まで

(単位 円)

教育活動収支	収入	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	1,964,940,000	1,881,733,881	83,206,119
		手 数 料	14,260,000	17,961,775	△ 3,701,775
		寄 付 金	1,900,000	945,993	954,007
		補 助 金	212,140,000	257,064,081	△ 44,924,081
		付随事業収入	462,960,000	431,095,897	31,864,103
		雑 収 入	21,060,000	19,953,749	1,106,251
		教育活動収入計(1)	2,677,260,000	2,608,755,376	68,504,624
	支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		人 件 費	1,793,847,000	1,784,034,734	9,812,266
教 育 研 究 経 費		555,683,000	565,379,968	△ 9,696,968	
管 理 経 費		271,010,000	213,355,594	57,654,406	
教育活動支出計(2)		2,620,540,000	2,562,770,296	57,769,704	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)		56,720,000	45,985,080	10,734,920	
教育活動外収支	収入 支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		教育活動外収入計(4)	0	1,553,794	△ 1,553,794
		教育活動外支出計(5)	3,720,000	3,313,991	406,009
		教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△ 3,720,000	△ 1,760,197	△ 1,959,803
経常収支差額(7)=(3)+(6)			53,000,000	44,224,883	8,775,117
特別収支	収入 支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		特別収入計(8)	0	0	0
		特別支出計(9)	0	39,063,099	0
	特別収支差額(10)=(8)-(9)		0	△ 39,063,099	39,063,099
	予備費(11)		0	0	0
	基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)		53,000,000	5,161,784	47,838,216
基本金組入額合計(13)			0	△ 66,641,136	66,641,136
当年度収支差額(14) = (12)+(13)			53,000,000	△ 61,479,352	114,479,352
前年度繰越収支差額			△ 4,728,851,704	△ 4,728,851,704	0
翌年度繰越収支差額			△ 4,675,851,704	△ 4,790,331,056	114,479,352
(参考)					
事業活動収入計			2,677,260,000	2,610,309,170	66,950,830
事業活動支出計			2,624,260,000	2,605,147,386	19,112,614

資金収支計算書

2025 年 4 月 1 日 から
2026 年 3 月 31 日 まで

(単位 円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	1,964,940,000	1,881,733,881	83,206,119
手数料収入	14,260,000	17,961,775	△ 3,701,775
寄付金収入	1,900,000	945,993	954,007
補助金収入	212,140,000	257,064,081	△ 44,924,081
付随事業収入	462,960,000	431,095,897	31,864,103
受取利息収入	0	1,553,794	△ 1,553,794
雑収入	21,060,000	19,953,749	1,106,251
前受金収入	370,000,000	386,457,943	△ 16,457,943
その他の収入	80,000,000	69,203,422	10,796,578
資金収入調整勘定	△ 440,000,000	△ 477,249,428	37,249,428
前年度繰越支払資金	439,447,288	439,447,288	0
収入の部合計	3,126,707,288	3,028,168,395	98,538,893

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,813,915,000	1,785,921,369	27,993,631
教育研究経費支出	424,093,000	432,600,616	△ 8,507,616
管理経費支出	248,630,000	191,084,986	57,545,014
借入金等返済支出	228,680,000	137,399,382	91,280,618
施設関係支出	80,150,000	51,331,940	28,818,060
設備関係支出	4,460,000	22,743,020	△ 18,283,020
その他の支出	100,000,000	104,990,891	△ 4,990,891
資金支出調整勘定	△ 100,000,000	△ 86,604,552	△ 13,395,448
次年度繰越支払資金	326,779,288	388,700,743	△ 61,921,455
支出の部合計	3,126,707,288	3,028,168,395	98,538,893

学校法人 大阪YMCA

財 産 目 録

(2026年3月31日現在)

I 資産総額

- 内 1 基本財産
2 運用財産

金 3,941,631,450 円
金 3,089,483,548 円
金 852,147,902 円
金 1,064,780,138 円
金 2,876,851,312 円

II 負債総額

III 正味財産

[1]資産

1 基本財産

(1) 土地

	面積 m ²	価額	備考
計	22,439.85	1,325,220,942	

(2) 建物

	面積 m ²	価額	備考
計	18,400.68	1,756,905,123	

(3) 構築物

	価額	備考
計	438,703	

(4) 図書

	価額	備考
計	2,358,071	

(5) 教具・校具及び備品

	価額	備考
計	31	

(6) 電話加入権

	金額	備考
計	4,560,678	

2 運用財産

(1) 預金・現金

ア 預金

	金額	備考
合計	387,022,823	

イ 現金

1,677,920

(2) 不動産

ア 土地

	面積 m ²	価額	備考
計	191.00	2,000,000	

イ 建物

	面積 m ²	価額	備考
計	3,581.31	224,548,440	

ウ 構築物

	価額	備考
計	11,232,213	

(3) 教具・校具及び備品

	価額	備考
計	46,348,325	

(4) 車輛

	金額	備考
計	1	

(5) ソフトウェア

	金額	備考
計	12,583,967	

(6) 敷金等			
		金額	備考
計		3,512,250	

(7) 未収入金			
		金額	備考
計		79,816,515	

(8) 前払金			
		金額	備考
計		10,034,182	

(9) 貸付金			
		金額	備考
計		40,594,266	

(10) その他			
		金額	備考
計		1,020,000	

(11) リース資産			
		価額	備考
計		31,757,000	

[2] 負債

1 固定負債

(イ) 長期借入金	12,556,000 円
(ロ) 退職給与引当金	255,173,599 円
(ハ) 預り敷金	175,000 円
(ニ) リース負債	24,135,320 円
計	292,039,919 円

2 流動負債

(イ) 短期借入金	217,761,000 円
(ロ) 前受金	386,457,943 円
(ハ) 未払金	78,679,858 円
(ニ) 預り金	50,015,317 円
(ホ) 賞与引当金	39,826,101 円
計	772,740,219 円

2025(令和7)年度 事業報告書

2025(令和7)年4月1日から2026(令和8)年3月31日まで

学校法人 大阪YMCA

学校法人大阪YMCA 2025(令和7)年度 事業報告書
2025(令和7)年4月1日から2026(令和8)年3月31日まで

I 法人の概要

1 設置する学校・学部・学科等

- (1) YMCA学院高等学校
通信制課程(広域・単位制) 総合学科
- (2) 大阪YMCA学院 進学日本語学科、キャリア形成実用日本語学科
- (3) 大阪YMCA国際専門学校
ビジネス専門課程 国際ホテル学科、国際ビジネス学科
国際ホテル・ビジネス専攻科
国際高等課程 国際学科、表現・コミュニケーション学科
- (4) 大阪YMCAインターナショナルスクール 幼稚部、初等部、中等部

2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(1) YMCA学院高等学校

課程	学科	学則定員
通信制課程(広域・単位制)	総合学科	1,310

(2) 大阪YMCA学院

学科	学則定員
進学日本語学科(1年コース)	40
進学日本語学科(1.5年コース)	40
進学日本語学科(2年コース)	80
キャリア形成実用日本語学科(1年午前コース)	100
キャリア形成実用日本語学科(1.5年午前コース)	50
キャリア形成実用日本語学科(2年午前コース)	20
キャリア形成実用日本語学科(1年午後コース)	100
キャリア形成実用日本語学科(1.5年午後コース)	50
キャリア形成実用日本語学科(2年午後コース)	20
合 計	500

(3) 大阪YMCA国際専門学校

課程名	学科名	学則定員
ビジネス専門課程	国際ホテル学科	140
	国際ビジネス学科	120
	国際ホテル・ビジネス専攻科	15
国際高等課程	国際学科	180
	表現・コミュニケーション学科	150
合 計		605

(4) 大阪YMCAインターナショナルスクール

学科名	学則定員
幼稚園部	60
初等部	180
中等部	90
合 計	330

3 役員・教職員の人数（令和7年5月1日現在）

(1) 役員

理事 8人

監事 3人

(2) 教員

YMCA学院高等学校

	専 任			非常勤	任期制	合 計
	教員	助手	計	講 師	助 手	
通信制課程	14	0	14	106	0	120

大阪YMCA学院

	専 任			非常勤	任期制	合 計
	教員	助手	計	講 師	助 手	
進学日本語学科 キャリア形成実用日本語学科	15	0	15	66	0	81

大阪YMCA国際専門学校

	専 任			非常勤	任期制	合 計
	教員	助手	計	講 師	助 手	
ビジネス専門課程	2	0	2	16	0	18
国際高等課程	27	0	27	45	0	72
合 計	29	0	29	61	0	90

大阪YMCAインターナショナルスクール

	専 任			非常勤	任期制	合 計
	教員	助手	計	講 師	助 手	
幼稚園部・初等部・中等部	36	5	41	0	0	41

(3) 職員

区 分	専任職員	兼務職員	合 計
YMCA学院高等学校	10	3	13
大阪YMCA学院	12	0	12
大阪YMCA国際専門学校	19	9	28
大阪YMCAインターナショナルスクール	17	0	17
合 計	58	12	70

Ⅱ 事業の概要

全体報告

学校法人大阪YMCAは、多様な背景を持つ生徒の学びを保障するため各校で特色ある事業を展開した。YMCA学院高等学校では合理的配慮の推進やNPOと連携した居場所づくり、DX化基盤の整備に注力した。大阪YMCA学院は認定日本語教育機関として理念を浸透させ、地域清掃や小学校との交流を行った。国際専門学校では、ビジネス専門課程の留学生の増加への対応や国際高等課程のICTによる個別学習の推進、地域・卒業生との連携を強化した。インターナショナルスクールは、海外交流や防災活動への参画、外資系企業等への広報を通じ、大阪の国際化を後押しした。

学校別事業計画・報告

YMCA学院高等学校

- 一人ひとりの「命の尊厳」が実現される学校運営を目指し、校内における合理的配慮の実践およびユニバーサルデザイン化をより一層推進した。
- 生徒の学習定着度に応じた「学びなおし」を可能にするカリキュラムの整備を推進し、1年次全員を対象とした「スタディサブリ」の導入計画（学習到達度テストの実施、および各コースに応じた学習サポート体制の構築）を策定した。
- NPO法人子育てネットとの業務提携を締結し、在学中からの相談体制を確立するとともに、卒業後の就労支援を視野に入れた「居場所づくり」の取り組みを展開した。
- 社会課題・地域課題への寄与として、校内外の外国籍高校生を対象とした「日本語集中講座」を継続的に実施し、多様な背景を持つ生徒の学習機会を保障した。
- 他校との円滑な連携を図るための「学校間連携パッケージ」を確立した。今年度は北陸学院高等学校との連携により、計9名の生徒に対する継続的な指導・支援を行い、進級へと繋げた。法人内の発達・心理分野の専門家と教員との定期的な交流機会を創出し、多面的なアプローチが可能な生徒支援ネットワークを構築した。

大阪YMCA学院

- 大阪YMCA国際専門学校外国語専門課程を吸収した体制になり、かつ、文部科学省による認定日本語教育機関としての初年度であったため、基本理念の浸透と、それを基にした教育活動の実践に努めた。
- 多様な出身国（地域）の学生が自国の文化を紹介する機会として、依頼のあった府内小学校に出向き、母国の文化紹介と交流を行った。
- 大阪市と大阪YMCAとが提携している「大阪市まち美化パートナー制度」で、毎月の地域清掃活動に学生がボランティアとして参加した。

日本語教育センター

- 大阪府教育庁からの委託事業（ピアにほんご）が4年目を迎え、府立高校で日本語支援が必要な外国ルーツの高校生を対象に、延べ122名の教育サポーターを派遣した。

大阪YMCA国際専門学校

【ビジネス専門課程】

国際ホテル学科／国際ビジネス学科／国際ホテル・ビジネス専攻科

- 留学生の増加もあり、学生数が前年比で大幅に増加した。
- 次年度からの日本人生徒や外国ルーツの生徒を対象とした説明会実施に向けて府立高校を訪問した。
- 大阪・関西万博でのパビリオンキャストへのインタビューという国際交流を兼ねたインターンシップへ参加した。
- 全国専門学校英語スピーチコンテストでは、2024年度の文部科学大臣賞に続き、2025年度は、全国語学ビジネス観光教育協会理事長賞を受賞し、語学力の高さを維持している。
- 日本語教育機関の教職員が進めたい進学先として「日本留学 AWARDS2025」（一般財団法人日本語教育振興協会主催）に入賞した。
- 将来のDX化に備えた基盤整備として、出勤簿の電子化移行への準備を進めた。
- 学生数増加に伴い、在籍管理や生活指導を例年以上に丁寧に行っている。

【国際高等課程】

国際学科

- 各教科会を実施して方針や目的、内容を明確化し、教職員間のコミュニケーションを強化することで生徒の学びと探究の場を整えた。
- 卒業生との関係性を継続するとともに、学校の計画や運営に参画いただくための「卒業生対象プラットフォーム」を作成した。
- 学校やプログラムを地域資源として位置づけるため、地域活動プログラムへのボランティア参画を実施したほか、商店街との連携の具体的な可能性について協議、模索した。

表現・コミュニケーション学科

- 一昨年度より継続して実施している生徒アンケートについて、本年度で3年目を迎えた。入学時から卒業時までの変化を継続的に把握することで、本学科の教育効果や生徒の成長実感を分析し、教育活動の改善に活用した。
- 保護者同士の交流促進を目的として、保護者主体のSNSコミュニティを立ち上げた。卒業生保護者から在校生保護者まで幅広いネットワークが形成されるとともに、保護者ボランティアによる学校行事や教育活動への協力体制の充実を図った。
- ICT教材を活用し、生徒一人ひとりの学習状況に応じた個別最適な学びを推進した。学習習慣の定着や基礎学力の向上を支援するとともに、主体的な学習を促進した。

大阪YMCAインターナショナルスクール

- 世界のYMCAネットワークを活かした活動を展開した。高雄・台中YMCA職員の来校受入れやソウルYMCAへの修学旅行など、計3件の国際交流を行った。また、地域や社会への貢献として、ホームレス支援団体「Homedoor」へのフードドネーションプログラム（4月16日）へ参加したほか、在日米商工会議所（ACCJ）と協働し、ハイアットリージェンシー京都でのガーデンプログラムへも参加した。
- 災害時避難所としての役割を深めるため、北区職員防災訓練や中津南自主防災会との備品整理等の協議に参画した。地域活動では「中津ハロウィン」等に協力したほか、保護者会と「インターナショナル・フェスティバル」を共催し中津自主防災会を招いた。さらに中津小

学校の授業参加受入れ、大淀中学校とのいじめ反対運動（ピンクシャツデー）連携など、近隣校との幼稚園・小中学校相互訪問も活発に行った。

- 経済界や行政と協働し、大阪市の国際化を強力に後押しした。Uber や MGM リゾーツなど計 5 社の外資系企業、および英国・フィリピン・イタリアの 3 領事館、さらにリロケーションサービス会社 2 社を個別に訪問し、学校紹介と PR を実施した。加えて「ACCJ クリスマスチャリティバッシュ」や「大阪日豪協会クリスマス会」などの主要な経済界・国際団体の主催行事にも精力的に参画し、独自のネットワークを拡大した。

監 査 報 告 書

2026年6月1日

学校法人 大阪YMCA

理 事 会 御中

評議員会 御中

理事・評議員選任委員会 御中

学校法人 大阪YMCA

監事

櫻井和之

監事

山本直嗣

私たちは、学校法人大阪YMCAの監事として、私立学校法第52条第1項第1号に基づいて同法人の2025（令和7）年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）における計算書類等（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細書、事業報告書及び附属明細書）及び財産目録を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

1 監査の方法及びその内容

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会に出席するほか、随時理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど業務及び財産の状況を調査し、必要と思われる監査手続を実施しました。

会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（私立学校法施行規則第37条各号に掲げる事項）を整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

2 監査の結果

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類及び財産目録は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以 上